

令和4年度 宝塚北高等学校 学校評価

A:よくできた(76~100) B:できた(51~75) C:あまりできなかった(26~50) D:できなかった(0~25)

領域	重点目標	具体的な取組	教員	生徒	保護者	担当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて (各部、各科、各委員会)より	学校評議員による指導助言
信頼される学校づくり	効果的な情報発信	1 学校ホームページを適切に更新し、必要な情報を提供する	B 66.1	B 54.6	B 64.1	情報	校外向けWebページは北高ダイアリーを中心に新しい情報を速やかに公開・提供できるよう努力している。また2学年副主任より要請を受け修学旅行の保護者向けページを作成し、情報提供を行ってもらった。校内向けのWebページは運用の中心を学年に移し、学年のスキルや必要に応じて活用して頂いている。今後、記事の作成を複数の教員で行えるように、著作権や肖像権に関する法や県の指針に沿った意識・知識を教師間に広める方法を検討し実施していきたい。	学校からの効果的な情報発信は、危機管理や連携活動とも密接に連関するものであり、信頼される学校づくりの基盤となる活動であると認識できる。学校ホームページを中心に、情報発信の重要性に関する教職員の意識を高めるとともに、適時・適切な情報発信に向けて、より一層努めていただきたい。
		2 地域の中学生・保護者の期待に応え、学校説明会を充実したものにする	B 72.2			総務	新型コロナウイルス感染状況をみながらではあったが、おおむね以前までの「北高を知る」「北高を体験する」「情報を提供する」の目的で開催ができた。全体会では生徒を前面に出したかたちで、本校の魅力を説明することができた。第2回では体験授業も開催でき本校の魅力を発信できた。	
	危機管理体制の確立	3 避難訓練やその他防災に関する教育を通して職員・生徒の防災に対する意識の向上を図る	B 57.8	B 60.2		総務	今年度も昨年度同様、避難訓練は教科担当による誘導で実施し、基本の経路確認を行った。今後、休み時間などの様々な状況下での避難訓練を設定していきたい。1月17日には朝のSHRで熱とうをささげ、震災を風化させないよう努めた。	
		4 職員間の連携をとり、いじめの防止・早期対応を組織的に行う	B 70.6			生徒指導	いじめアンケートの活用は勿論のこと、担任の気づき、面談などを通して、相談しやすい雰囲気づくりに努めた。来年度は、生徒の意見を交えながら、より回答しやすいアンケートに変更することを検討中。	
	地域・家庭・関係機関との連携	5 学校・学年・学級の取組について適切に情報提供し、保護者との連携を深める	B 71.1		B 60.0	学年	(1年)三者面談、保護者会に加え、適宜保護者との連絡、面談を行うことで保護者と学年・学級の情報を共有し、相互理解に努めた。 (2年)三者面談、保護者会、学年通信の定期的な発行をはじめ、こまめに電話連絡や面談を行うことにより保護者と情報を共有し、相互理解に努めた。 (3年)三者面談、保護者会、学年通信をはじめ、適宜保護者との電話連絡、面談を行うことで保護者と情報を共有し、相互理解に努めた。	
		6 学校評議員会や様々な学校行事を通して、地域との連携を深める	B 61.7			教頭	新型コロナウイルス感染拡大のため、ボランティア清掃は実施することができなかった。学校評議員会や生徒指導部の登下校指導、PTAとの連携等を通して、地域の理解を得られるよう努めた。	
学力向上と進路実現	職員の授業力・資質の向上	7 ICT教育の推進等にも対応し、様々な工夫を重ね、授業改善に努める	B 61.1			ICT活用	本年度からBYODが始まり、1年生全員iPadを活用した学習を行っている。今後はさらにICT教育の推進に向けて、機器などを活用する方法についての研修などを実施していきたい。	ICT機器の有効活用や入試制度改革への対応、総合的な探究の時間の充実にに向けた指導方法の確立など、重要な教育課題が山積している。求められている教職員の資質能力向上や職能開発が、生徒の学力向上と希望する進路実現に結び付くことを期待したい。
		8 新学習指導要領や大学入試制度の変更に対応しつつ、教科指導力の向上を図る	B 61.1			教務情報	新しい大学入試制度に向けた選択科目の設定について検討した。観点別評価の導入に当たって、学校全体で、シラバスや評価と指導の計画の作成等に取り組んだ。来年度は、研究授業をより活性化させ、新学習指導要領に基づいた学習指導の力量を伸ばすことが課題である。	
	すべての生徒の学力向上	9 計画的に授業・補習・小テストなどを実施し、生徒の学力を向上させる	B 73.3	B 63.5	B 64.0	学年	(1年)基礎学力の定着をはかり、計画的に補習、補充、小テストに取り組めた。 (2年)基礎学力の定着のため、計画的な小テストの実施、補習・補充の実施を行えた。 (3年)生徒の学力向上のためにも、授業アンケートの実施は課題の一つである。観点別評価で取り組んでいる教科もあるが学校として取り組むことが大切である。	
		10 生徒の学力向上に向け、量・質のバランスに配慮した課題を課す	B 63.9	B 54.4	B 63.3		(1年)生徒への自学自習を促すことができるように課題の量に配慮できた。 (2年)教科間の連携を密にすることにより、生徒それぞれにとってより効果的な質・量の課題を課すことができた。 (3年)各自の進路に応じた課題を、適切な時期に課すように各教科で努力した。	
		11 「家庭学習の記録」を通して、家庭学習の実態を把握し、学習指導に生かす	B 56.7				(1年)一週間を見通した学習計画を立てその振り返りを行うことにより学習習慣の定着をはかった。 (2年)生徒が自主的に学習活動に取り組めるように、その定着をはかりつつ、自己を見直すきっかけとできるよう活用した。 (3年)学習のリズムを維持し、時間の使い方を自己管理させると共に生徒の変化に気づく一助となったが、コメントを書く等担任にとっては毎日50分程度の業務であり決して軽くない。	
	総合的な探究の時間の充実	12 目標を明確にし、発表会を実施するなど、「総合的な探究の時間」を充実させる	B 61.1			教務情報	全体の目標、年間指導計画、評価と指導の計画等の作成や検討を行った。理数探究基礎の導入に向けて、指導計画、評価と指導の計画の検討、作成を行った。来年度は、計画に沿って指導し、点検・反省を行い、よりよい指導方法の確立を図っていきたい。	
進路指導の充実	13 生徒個々が将来の姿を考え、自己実現をめざす教育を実践する	B 61.7	B 60.7	B 65.8	進路指導	進路ガイダンス等は、ほぼ予定通り実施できたが、行事の際や学期ごとに感想等を記録している「キャリアパスポート」をさらに活用し、生徒が中長期的な振り返りや見通しができるよう促していきたい。		
	14 面談や様々な進路に関する働きかけを通して、早期から進路に対する生徒の意識を向上させる	B 74.4		B 65.1		担任による個人面談や、学年全体での講演会、模擬授業などはできたが、学級単位での進路に関するホームルームの時間が十分にとれていないのが現状である。クラスで進路について考える時間が確保できるよう努めたい。		

令和4年度 宝塚北高等学校 学校評価

A:よくできた(76~100) B:できた(51~75) C:あまりできなかった(26~50) D:できなかった(0~25)

領域	重点目標	具体的な取組	教員	生徒	保護者	担当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて (各部、各科、各委員会)より	学校評議員による指導助言
創造的な校風の樹立	演劇科の充実	15 【演劇科】「朝読」や特別講義などを通して、読解力や思考力を向上させる	B 63.9	/	B 70.3	演劇科	今年度は「朝読」を年度当初から開始することができた。「朝読」をはじめ、特別講義や校外学習をきっかけに戯曲を手にする生徒は多少増えた。校外学習や特別講義の感想文への取り組みをより有意義なものにしていきたい。	演劇科とGS科における特色ある教育活動は、学校全体の活性化にも貢献していることがうかがえる。普通科の特色化も図りつつ、3学科の切磋琢磨による魅力的な校風づくりをより強力に推進していただきたい。 体育大会での応援戦はよい伝統であり、コロナ禍で実施しにくい期間があったと思うが、今後も頑張ってもらえるよう希望する。
		16 【演劇科】専門科目などを通して、表現力・コミュニケーション能力を育成する	B 72.2	/	A 78.5		今年度は活動に対する制約が緩和され、生徒の活動も活発なものになった。一方で、制約の中で過ごしてきたため心の解放に慣れていない生徒もあり、配慮や工夫が必要である。今後も慎重に取り組んでいきたい。	
		17 【演劇科】特色ある学びを通して、芸術への愛情を深め、調和のとれた人格の育成を図る	B 67.8	/	A 78.1		今年度は校外学習の回数を増やすことができ、鑑賞する作品の幅を広げることができた。また、「特別支援学校」「希望の家」「ファミリーサポートセンター交流会」と異なる層を対象とした外部出演の機会に恵まれ、生徒が大きく成長する機会となった。今後も積極的に外部出演の機会を検討していきたい。	
	GS科の充実	18 【GS科】海外交流や英語を活用した取組を通して、グローバルな視点を持たせ、世界を意識させる	B 75.0	/	B 67.4	GS科	今年度もシナトル研修は実施できなかった。学校設定科目「GSⅢ」等で英語科教員の協力を得たり、国際理解教育委員会と連携したりしてZoom等を利用した海外の企業・大学・学生との交流会や研究発表の機会を複数回実施した。生徒の事後アンケートにより高評価を得ることができた。今後も継承していきたい。	
		19 【GS科】専門的な理数科目の授業や科目横断型授業を通して、自らの将来像を深く考えさせる	A 76.7	/	B 72.5		GS科の学校設定科目「GSⅠ」「GSⅡ」「GSⅢ」を通じて深い学びにつながる探究的活動(課題研究)を充実させることができた。卒業生アンケート(35回生)ではGS科での学びによる成長を実感する回答が多かった。また、すべての課題研究班が外部発表会等に自主的に応募している。今後も継承していきたい。	
		20 【GS科】高大連携授業や課題研究等の取組を通して、思考力・判断力・表現力を育成し、学ぶ意欲を高める	A 78.3	/	A 78.6		SSH事業の利点を活かし、様々な場面で大学・企業・博物館等との連携を行うことができた。徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつある。探究活動を1年次から取り入れて、思考力・判断力・表現力を育成を図った。	
ふるさと貢献活動事業の充実	21 特別支援学校等との交流や地域との連携を通して、思いやりの心を育む	B 58.3	/	B 58.1	総務	宝塚市立養護学校との交流は昨年度に引き続きビデオ交流となった。1年生の有志によって交流が行われたが、交流の内容について、教師からの指導という形になってしまった。今後、企画から生徒と共に作り上げるものにしていきたい。		
国際交流事業の充実	22 海外交流や様々な授業などを通して、グローバルな視点を持たせる	B 69.4	/	/	国際理解	昨年度同様、大阪大学留学生を招いての交流会、マレーシアの大学や台湾の高校とのオンライン交流会を実施し、JICA関西訪問も予定している。また今年度は、外務省職員による高校講座、PTA会員対象の英会話教室も実施した。引き続き、コロナ禍中の国際理解教育の在り方を模索していきたい。		
豊かな人間性の涵養	規律ある態度の育成	23 登下校のマナーや校門指導・挨拶や身だしなみの指導を通して、「高校生にふさわしいマナー」を身につけさせる	B 60.6	B 68.3	B 72.8	生徒指導	挨拶や返事を始め、まだまだ満足いくものではない。自主・自律の精神を身につけさせ、自ら考えて行動できる力。その根底にあるのが「挨拶」と考える。	生徒指導や人権教育等を通じて目指すべき「豊かな人間性」の具体は何か、どのようにして生徒たちに身に付けさせるか、といったような点について、教職員間の共通理解を図ることが重要である。足並みを揃えることに加え、学校の教育活動全体を通じた取組を期待したい。
	人権教育の推進	24 人権HRやその他様々な機会において、人権意識の向上を図る	B 57.2	B 57.8	B 63.4	人権推進	1学期に2度外部講師を招いて職員修会を開いた。各学年、年1回の人権HRを設定し、2・3学期に実施した。また、職員向けに人権通信を発行した。	
	図書館利用の推進	25 図書だよりの配布をはじめ様々な方法で、読書活動への興味関心を高める	A 83.3	B 53.3	/	図書	毎月「図書だよりの」と「新着図書案内」、学期末には特別号を発行した。他にも図書委員が中心となり、「図書委員便り」をNO. 7まで発行した。また毎年秋に行っている読書週間行事も、図書委員中心にイベントを考え、活動した。来年度も、図書委員を中心に積極的に図書室を運営していきたい。	生徒会活動を充実させてほしい。また、主権者教育の一環で疑似選挙をしてほしい。生徒会役員選挙の時に、実際の選挙で使用される備品を用いてほしい。市役所の選挙管理委員会に貸し出し備品があります。
	保健・健康教育の推進	26 保健だよりの配布およびその他様々な機会において、生徒が自分自身を大切にすることを育成を図る	B 71.7	/	B 63.2	保健	保健だよりの(すみれ)を毎月発行した。今年度は新型コロナウイルス感染症対策をふまえながら日常の健康管理について情報発信した。今後もテーマの精選、内容の充実を図りたい。講演会についても、命を大切にできる、自尊感情を高めるような内容で企画したい。	生徒のアンケートで図書館の利用について、Dの数が多いたことが気になりました。読書活動への関心を高めるため図書便りを配布していることですが、子供たちの間では活字離れが進んでいく状態だと思います。今後読書に関する取組を推進して頂きたいと思えます。
	生徒会活動の充実	27 キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒に関する諸問題に対して組織的に対応する	B 73.3	/	B 61.6	生徒指導	今年度はカウンセラーが複数体制になり、相談者のニーズに合った機会を提供できた。今後も職員とカウンセラーとの連携をすすめ、教育相談活動の円滑な実施を図りたい。	この項目での先生方のA評価が多いことに安心しております。一人一人が個を大切に、どのような未来を描いていけるか?ということに関わるとても大切な時期です。保護者・PTAとして協力して取り組んでいけるようにしたいと思います。
		28 学校行事・委員会活動・その他様々な場面において、生徒の主体的・協働的な態度を養う	B 67.8	B 72.2	/		生徒会活動は活発になってきている。生徒会執行部、生徒、教師の連携をしっかりと。更に、生徒が主体となって学校運営に携われる様にしていきたい。	
SSHによる特色ある学校づくり	SSHによる学校教育活動の活性化	29 SSH指定校として、特色ある教育活動を行う	B 71.7	B 61.1	B 70.0	SSH	SSH主対象生徒であるGS科に対して学校設定科目「GSⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を実施している。このような探究的活動(課題研究)に特化した授業はSSH指定校でなければ実施できない教育活動である。同じく主対象生徒である自然科学系の部活動の研究活動に対しても支援を行い、研究内容の質が向上してきている。	宝塚北高校における特色づくりの中核的な取組として、より一層の充実・発展を期待するとともに、SSHを通じた教育活動の成果と関連情報の積極的な発信に努めていただきたい。
		30 SSHを、学校の教育活動に効果的に生かす	B 66.1	B 63.0	B 72.4		SSHの成果普及として他校生対象に「リサーチプラン研修会」を行った。普通科の「総合的な探究の時間」に講師を招聘し、講演を行った。また、全校生対象にSSH校対象のイベントやGS科の講義や校外学習の募集を呼びかけ、少人数ではあったが参加者があった。	SSHによる学校づくりを更に進めて欲しい。
	31 SSHによる知的探究心の育成	B 70.0	A 77.2	B 66.8	学校設定科目「GSⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を通じて、知的探究心の育成を図った。また、科学オリンピックの参加者も30名近くあった。外部の科学系発表会やコンクールへの参加者は今年度も多数に及んだ。			
	32 SSHによる学力向上	B 65.6	B 73.2	B 63.6	GS科において特色ある授業(「GSⅠ・Ⅱ・Ⅲ」)を行っている。学力の定義や学力向上を測る指標は難しいが、いわゆる難関国立大学の合格者数は、ほぼ例年通りであった。また、本校の研究については外部の科学コンクールの評価(受賞)は高く、学力は向上に繋がっていると判断している。			